



諸
 鳥
 車
 見
 鳥
 諸



利
 1972
 2



1972
2

七

花見車 二

京 大坂 江戸 并 諸國宗匠

長乃丸を那指宗匠乃能として代々
切々編集ありて見事なりける故形り
くくは世に人のわらうも土代ありて
きくくは世に人のわらうも土代ありて
前後より車もくくは世に人のわらうも
京寺所二系上り所并同屋をなせぬ
店よりえぬとせぬくくは世に人のわらうも
形号丸白丸白丸白丸白丸白丸白丸



花見車

京

長頸丸	立甫	惟舟	貞室	西武	貞兼
令富	梅盛	貞怒	常矩	信德	隨流
似船	高政	自悅	常牧	定之	幸仇
和及	我黑	如泉	言水	林鴻	晚山
鞭石	好春	方山	轍士	泥足	柳水
鷺水	心桂	可休	古柳	滴水	雲鼓
風山	了我	怨風			

大坂

宗因	玖也	保友	西鶴	遠舟	由平
一特軒	益翁	豐流	來山	才磨	万海
一禮	園女	川柳	伴自	賀子	團水
只丸	諷竹	芝栢	舍羅	天垂	盤水
東行	何中	岸紫			
德元	玄札	未得	立志	露言	調和
	江戸				

風子	友琴	律友	鈞寂	吟夕	芳水
木因	荷兮	露川	東鷺	如行	三千風
元順	青流	尚白	洒堂	惟然	團友
艷士	渭北	吐海	專吟	湖月	
常陽	秀和	盤谷	一蜂	介我	神叔
山夕	不角	無倫	桃隣	東潮	素才
桃青	嵐雪	其角	立志	一鼎	沾德

諸國占者

負直	晚翠	梅負	除風	朱拙	不玉
助叟	支考	雲鈴	等躬	路通	西吟
宗且					

勝名并編集之作者

春澄	秋風	重德	千春	立吟	和海
淵瀨	芝蘭	去來	風國	正武	素雲
如琴	為玉	為文	竹亭	丹野	一林
怪石	里石	松兩	賦山	吾中	厓元
政勝	竹條	原水	定方	紅殘	金毛
為有	都水	圓枕	常雪	壘中	芦角

卷之三

定宗	阿誰	陽川	洞水	万蝶	落水
浮芥	鬼貫	半隱	定明	季子範	杏醉
甄界	文十	如回	三維	芙蓉	伊舟中
休計	素堂	岩翁	一鉄	卜尺	枳風
杉風	曾良	一十竹	尺草	百里	氷花
仙化	鋤立	琴風	秋色	横儿	子珊
史邦	旭志	潮叟	知月	木節	乙列
正秀	丈草	曲翠	芥舟	許六	江水
荊口	已百	白雪	梅可	狸々	

京

兼應二年十月十五日卒
鳥羽實相寺 長頭丸

元和四年
寛永七年

梅もろくさ白ひくまろくや午乃年
力もろくさ白ひくまろくや午乃年

徳和と云ふはたの守乃強意録を内征伐の軍多とけり
ゆりゆり乃元日よとあまありは菓乃ついでありくこまろくまろく
西と屬八百年乃こく一内志のこくは口の句を奉り

寛文十一年二月七日卒 貞室

年徳やさか姫君乃うぬり終

寛文九年九月晦日卒
二条寺町要法寺 立圃

もろくさ白ひくまろくや午乃年

延寶八年六月廿九日卒
东山大谷 維舟

筆一もみやう年や對乃去

西武

田かへきと二子」の程すく武事か

全三
梅盛

あつ年一やまゝのみあつ申一の秋

日年
貞怒

ほのゝ思人の正月こと案か

故人
常矩

あつふか子一人乃日子代乃去

半條
貞兼

八月
国あり

風俗の
白のよ

富士乃移人〜こゝろ〜きよ〜れたり

日
今富

年正月亥とと〜や〜せりよ

い君さうら乃風俗らちよあ〜もあが
ご〜地ちの袖ちあ〜今今城乃
帯と鹿よ田れ〜あ〜あ〜あ
か〜〜〜心ざん〜と〜れよ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
寺ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

花鳥集二

五

六月西やまりし一抱しつる

○中庸論 己天道 檀林と百款

▲を文 自悦大婦

あやむ
とちか
うぐわらあやむや乃せまらうらうらうらうら乃
風俗とくくふあえらねくめらせあぬの
すまらうくはせまらりやうまらうらうら
らうまらぬらぬら

娘風や三子乃林檎歌とさう

○元洛六百額

▲を文 常牧歌尾

常
子

短句のつらうらあはくはとあむうく上あ
ああうらうらあわらとあけねむ傷後たなく
終

陽をや静分半一乃丸たうら

○この屯 あひあひ とそれの森 あひあひ

▲天祿 定之信女

遠

言句のせうらうらうらあいつあせうら
もつらうらうらあわらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら

梅くらく人志は四代よ浦乙女

○一丁鼓

▲乙神

孝作大姉

おしい君うくゆんぢうとほがおとくさなり
ゆいどの下がどややでつ終よふ自由がけけが
らんあふやでう風俗ととくれと終て終とい
むうとやとやれしりひてやあやめくやん
かねぬうらうらとやわらうら子歌とくれ候
乃おもしろとかけれく

碧桃^ハ知^ヌ庭^ノ抜

此年
新見集
琴
漢
白

え
ち
可
也

○大それと入亦二番亦三番亦

▲乙神

和及歌尼

くくめハ建はらあよこらんちやくくわ
わが小利はよつとくれくのらそ風俗と
うかうんくくともあつれりあんせう
あうらつりくくくくくくくくくくくくくく
くく

我もくくくくくくくくくくくくくく

○雀の森

あま
あま
あま

▲乙神

我思

中歌
のり
のり
のり

ちげぬのりあめくさくさめさあきこれ
屏風のわぎよだるりさんしごうそのつら
やうがよみあくちあめくさくさ味源といん
ととらふさあれどあざさしもろくさあめが
を一年あたらあめくさくさあめくさくさ
○夜あめくさくさくさくさくさくさくさ
▲ちあめくさくさくさくさくさくさくさ
如泉
はらうみせ年あめくさくさくさくさくさくさ
たまふく秋あめくさくさくさくさくさくさ
ぬ日くよあめくさくさくさくさくさくさ

三母
のり

三母
のり

さねも十のりあめくさくさくさくさくさ
つらあめくさくさくさくさくさくさくさ
あめくさくさくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさくさくさくさ
八百のりのあめくさくさくさくさくさ
○松雛子
▲ちあめくさくさくさくさくさくさくさ
言水
あめくさくさくさくさくさくさくさくさ
あめくさくさくさくさくさくさくさくさ

とわゆる身あがりていふ人ぞあつてもな
ちまのちま魚イサをわくちまをてんてん
ちまの魚イサをわくちまをてんてん

曙乃系のてん鼠や必の虫

○新巻鳥 ちま虫

▲天祿 方山

ほろかろくをてん鼠をわくちまをてんてん
ちまの魚イサをわくちまをてんてん
ちまの魚イサをわくちまをてんてん

のりき

て身もまされたりあまりえぬ房み
ちまの魚イサをわくちまをてんてん
ちまの魚イサをわくちまをてんてん

甘し物みれあつてかつあつてあま

○栲屏凡 水の箱 曉山集

▲ちま 輟士

ちまの魚イサをわくちまをてんてん
ちまの魚イサをわくちまをてんてん
ちまの魚イサをわくちまをてんてん

命八と
命九と
命十と
命十一と
命十二と

一、座よりくち申のふとゆてのびらて
うさきんも風俗も江戸より似てゐる
乃中もよみやよしとていふ人々もあは
地もよきと云ふあるゆへにあつていふ
紋目もよきと云ふあるゆへにあつていふ
ちよとていふもの

屋杯等も小ぢかちやうと云ふ

○ 赤膚 世のあつては 白眼 後山 尾山 築 五山
系骨 日月 七車 菱車 井 猿投 自伝

▲ 七種

江戸のやく松尾屋のぶらこをいふあつて

和音

出音

七種よりあつては、風俗のよきゆへ
あつては、わさつていふゆへに、唐人のあつて
ゆへに、唐のあつては、唐のあつて
松浦のあつては、東門のあつて

○ 七種

▲ 七種

柳水

八、中より、江戸のあつては、江戸のあつて
あつては、江戸のあつては、江戸のあつて

あつては、江戸のあつては、江戸のあつて

○ 大元式 包井 都百歌

和歌
子集

そよぶ風のたふしみあはくは歌かうし形や
初あつてのつらきいづらふり

八雲乃 幾百加われやとの雲

○あつかや けい ちのむくせ云 新武介

▲比佐尼 心桂

鳥とてふ古出よふあはくはどめらうり
うらみのかたきあはくは只氣がらうり
いづら文庫くげくあはくはめ
はくはうんく

かこゆる 鳥あくの柳一

大雲

古往

▲きんらや 了我

さんちやうしゆたきあはくは
いづんしゆく三葉乃 柳よとてうらあはく
けい一のたもわがあはくは
かこあはくはごうやうしゆれよとて
うきやうしゆあはくは
とてごうしゆあはくは
らばくはら

あうらふ葉あはくは

○一高鶏

▲二階とてし 怒風

英のくさるるよわくはくわんまう
くろくまよるるる

お化人うから持かりまう

大坂

西山宗周

痛むとてむらりり首乃骨

次也

年あまき声やあきく徳物

保友

去るあや氣乃髪乃年の海

西鶴

射くあまの何乃根もあの大木敷

遠舟

とめくも物老風信く能波の云

▲ ちま 未山

た^ひ一もよまやんとつゝあびちまのあ乃
ふゆのしつちりまらんちりのちりちり
あ糸め糸ううぬよちね火酒のうかり
ゆふううううがおりうううよあて
あまううううのうううううう
ううううう

四
字

名月やるあももるあはちね初

▲ ちま 才磨

うらひそのりももるなりやうられきん
梅の白い乃びるうううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう

ちま乃舞ううううううの月

○ 誰の葉 後推の葉 ううう

▲ ちま 万海

ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

貞

身とらひちんさほがさくちらんれま
んさろがらつてさぢんさよのまんさつ
よつまさくたてあぬ

海山乃そりりのほいじ鹿水

○わさ馬

▲ちま

一礼

集の
名を

あまがの馬乃ろろあつろろ風
俗がしつらろろさ後日くも
んさどちまのあまを飛かんがの
よぢんかろろんさびかやんあまて

ちまろろ

武さろろあやふゆゆるあつら

▲ちま

園女

あんまの風もりやろろち夜よあねろ
ろろの露女ろろろろろ風俗あま
ろろあんとれろろはあましむろろ
ゆるろろろろろろろろろろろろ
はろろろろろろろろろろろろろ
はろろろろろろろろろろろろろ
らんまろろろろろろろろろろ

